きずな

文化財保護センターだより

創刊号　　平成３年７月１日

財団法人　岐阜県文化財保護センター

〒501-02　岐阜県本巣郡穂積町牛牧宮下395　　TEL（FAX）05832-7-8980

●もくじ

ごあいさつ……1
開所式にあたって……2
文化財の保護……2
平成３年度役員・職員名簿……3
平成３年度事業計画……3
発掘状況……4～8
センターだより……8

ごあいさつ

岐阜県知事　梶　原　　拓

県民の多くの皆さんが、岐阜県をふるさととしてこよなく愛し満足しておられます。これは、私たちの先人がより豊かな生活と文化を営々と築きあげてきた努力の賜物であります。素晴らしいふるさとこそが、未来へ伝える最高の財産であり、これを築き上げた人の心を未来へと引き継ぎ、さらに暮らしやすい岐阜県をつくりあげていくことが、私たちの努めであります。その意味で、私は夢おこし県政を掲げ、「日本一住みよいふるさと岐阜づくり」をめざし全力を傾けています。

その一環として私は、豊かな自然と歴史、文化資源を活用し、文化的環境の創出に努めます。このため、埋蔵文化財や優れた建造物など、先人の努力の賜物である文化遺産を調査・保存し、その保護思想の普及の拠点として、「財団法人岐阜県文化財保護センター」を設立しました。

光り輝く岐阜県の未来を創造する、「夢そだて財団」としてご支援いただけることをお願いいたします。

高山陣屋跡発掘遺構全景

財団法人岐阜県文化財保護センター開所式

開所式にあたって

財団法人岐阜県文化財保護センター
理事長(副知事)　秋　本　敏　文

日本の中央に位置している岐阜県は、東西文化の影響を受けて、独自の文化を創造してきました。また歴史を揺るがす舞台にも度々登場してきました。こうした地域を解明する史跡や遺跡など数多くの貴重な文化財は、地域に生きた先人の証であります。

同時にこれらの文化財にこめられた先人の心は、岐阜県の輝かしい未来を志向するよりどころでもあります。この貴重な文化財を後世まで守り伝えることは現代に生きる私達の責務であります。

本年4月1日財団法人岐阜県文化財保護センターが発足しました。県民の期待に応えるため、今後とも施設・設備や陣容などの充実に努めたいと考えていますので、一層のご支援をお願いします。

文化財の保護

岐阜県教育委員会
教育長　篠　田　幸　雄

岐阜県には、不破関跡・美濃国分寺跡・関ヶ原古戦場・高山陣屋跡をはじめとする、貴重な史跡や遺跡が数多く保存されています。こうした文化財は、度重なる天災や戦火をくぐりぬけ、今日まで守り続けられてきました。しかし、長い歳月により滅失の危機にさらされ、また近時の急激な開発の中で、保存対策を講じなければならないものも数多くあります。

さらに、生涯学習の重要性に鑑み、「文化財から学びたい」という要望に応えていきたいと考えています。

このような状況の中で、文化財保護の拠点として、財団法人岐阜県文化財保護センターが発足しました。より一層、充実・発展するよう願っています。

■平成３年度役員・職員名簿　（平成３年６月17日現在）

□ 役 員

理事長	秋本敏文	（岐阜県副知事）
副理事長	篠田幸雄	（岐阜県教育長）
専務理事	岩砂　仁	
理　事	蒔田　浩	（岐阜県市長会長）
理　事	中井　勉	（岐阜県町村長会長）
理　事	浅野　勇	（岐阜県都市教育長会長）
理　事	西脇成紀	（岐阜県町村教育長会長）
理　事	大野政雄	（岐阜県文化財保護審議会長）
理　事	永倉八郎	（岐阜県総務部長）
理　事	竹山清之助	（岐阜県農政部長）
理　事	山岸俊之	（岐阜県土木部長）
理　事	藤田幸也	（岐阜県開発企業局長）
理　事	竹中寿一	（岐阜県教育次長）
理　事	篠田幸男	（岐阜県博物館長）
監　事	岩井藤嗣	（岐阜県出納課長）
監　事	林　正隆	（岐阜県教委総務課長）

□ 職 員

専務理事　兼事務局長	岩砂　仁
調査課　課長	西村覚良
総務課　総括課長補佐兼係長	小林哲夫
調査課　総括課長補佐兼係長	只腰正知
調査課　課長補佐	宇野治幸
調査課　課長補佐	武藤貞昭
調査課　課長補佐	川部　誠
調査課　学芸主事	上嶋善治
調査課　学芸主事	各務光洋
調査課　学芸主事	佐野康雄
調査課　学芸主事	鈴木　昇
総務課　事務嘱託員	岩手正実
総務課　事務補助員	梶田弘美

● 平成３年度事業計画

事業名	事業者	調査地	遺跡名
徳山ダム水没地区内埋蔵文化財緊急発掘調査	水資源開発公団	藤橋村	上原遺跡
		〃	塚遺跡
		〃	長吉遺跡
		〃	上開田村平遺跡
東海北陸自動車道建設用地内（美並～八幡間）埋蔵文化財緊急発掘調査	日本道路公団	美並村	野首遺跡
		〃	宮下遺跡
		〃	深戸遺跡
		八幡町	赤谷遺跡
		〃	西乙原遺跡
国道41号改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査	建設省	小坂町	門坂シズマ遺跡
長良高プール建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県	岐阜市	城之内遺跡
高山陣屋跡発掘調査	岐阜県	高山市	高山陣屋跡

● 発掘調査地

発　掘　状　況

■徳山埋蔵文化財発掘調査

塚遺跡　発掘風景

揖斐川最上流に位置する揖斐郡藤橋村徳山地区（旧徳山村）で、今年も発掘調査が始まりました。

徳山埋蔵文化財発掘調査は、徳山ダム建設に伴い、水没予定の埋蔵文化財包蔵地を発掘調査し、記録保存処置を行うものです。昭和61年度から岐阜県教育委員会によって始められ、今年度より当センターが担当することになりました。

これまで、揖斐川支流の西谷流域を中心に10遺跡を調査してきました。特に縄文時代（今から１万年～2,200年前）を中心に、東海・北陸・近畿の接点としての「徳山」を特徴づける貴重な遺構・遺物が多数見つかっています。また全村水没のため、まとまった一地域の発掘調査としても全国的に注目されています。

今年度より、全面的に揖斐川本流域（通称東谷）の調査となり、11月下旬まで、次の４遺跡（合計調査面積5,550㎡）を発掘調査します。

５月７日、調査始め式を行い、塚遺跡と上原遺跡において発掘調査が始まりました。

塚遺跡 …… 1,362㎡
長吉遺跡 …… 800㎡
上開田村平遺跡 …… 588㎡
上原（あげはら）遺跡 … 2,800㎡

▶塚遺跡

本遺跡は、揖斐郡藤橋村大字塚字村平にあり、揖斐川本流左岸の旧塚集落が位置する河岸段丘の先端部に立地しています。

昨年度、遺跡の一部（296㎡）を発掘調査し、縄文時代中期から晩期の初め（今から約4,000年～2,500年前）の土器・石器類が出土しました。

遺跡は揖斐川との比高が低く、また、背後の谷からの土砂の押し出しも考えられ、遺構の保存状態が心配でしたが、今年の調査で、縄文時代中期の住居跡が２基見つかっています。１基は直径３ｍ程の円形の竪穴式住居跡と思われ、多くの土器が出土しています。まだプランを確認した段階で、詳しい調査はこれからです。もう１基は、炉跡を検出しましたが、プランは一部しか確認できていません。

現在のところ、この遺跡は縄文時代中期後半から後期にかけての遺跡と考えられます。

上原（あげはら）遺跡　発掘風景

▶上原遺跡

上原遺跡第３号土器棺墓検出状況

本遺跡は、揖斐郡藤橋村大字徳山字上原にあり、旧本郷集落から約１㎞揖斐川本流を遡った徳山地区で最も広い右岸段丘上に立地しています。

段丘は、かって水田に利用されており、これまで表面採集された多量の遺物が報告されています。出土土器はおおむね縄文時代全時期にわたっています。遺跡面積は16,846㎡におよび、昨年度から始まった調査は、平成７年度まで継続して行います。

現在、遺跡の南部を発掘していますが、遺物は豊富に出土します。土器は、縄文時代中期～晩期のもので、施文から見ると東海地方の特徴が色濃く出ていますが、里木式とよばれる西日本の中期後半のものも多く見られます。石器では、石錘の出土が目立ちます。

遺構としては、方形の炉跡をもつ住居跡・土器棺墓・配石墓をそれぞれ１基検出しました。土器棺墓は、２個体の甕からなる合口(あわせぐち)土器棺墓とよばれるもので、縄文時代晩期のものです。

■城之内遺跡発掘調査

城之内遺跡は、岐阜市長良西後町に所在し長良高等学校・東長良中学校、それに岐阜大学教育学部・教養部跡地になっています。

今回の調査は、長良高等学校のプール建設に伴い、本遺跡の一画を発掘調査することになったものです。４月22日に調査始め式を行い、７月末日まで現地での調査を行います。

本遺跡は、昭和62年度に岐阜市教育委員会が、昭和63年度・平成元年度に岐阜県教育委員会がそれぞれ発掘調査を行いました。弥生時代後期の住居跡や白鳳時代の溝、鎌倉時代から室町時代にかけての溝・井戸が検出されました。遺物も各々の時代のものが出土しました。中には人面瓦（鬼面文軒丸瓦）を含む白鳳時代の瓦類が出土しており、「長良廃寺」の存在が想定されます。また、古代の官道である東山道がこの付近を通過していた可能性もあり、関連施設の存在が想定されます。さらに、戦国時代に美濃国守護土岐氏の屋敷「枝広館」の存在も想定されます。

今回の調査区域でも、これらを解明する手がかりが得られるものと期待しています。

城之内遺跡発掘風景

■東海北陸自動車道 埋蔵文化財発掘調査

平成３年度より東海北陸自動車道建設に伴う発掘調査が始まりました。今年度は深戸遺跡・宮下遺跡（美並村）赤谷遺跡（八幡町）等計6,850㎡が発掘調査予定となっています。

５月10日に調査始め式を行い、深戸遺跡と宮下遺跡において発掘調査を始めました。

▶深戸遺跡

本遺跡は、郡上郡美並村三戸にあり、長良川本流左岸の河岸段丘に立地しています。調査予定地は斜面状となっており、栗林や畑に利用されていました。

遺跡の土層は３つに分かれています。第Ⅱ層から山茶碗、灰釉、打製石斧等が出土しており、中・近世に属するものが中心です。しかし、遺構の多くが現代の耕作によって攪乱を受けているようです。

深戸遺跡発掘風景

▶宮下遺跡

本遺跡は、郡上郡美並村山田字夏焼平にあります。八幡町との境にある標高400m～600mの山から南西に延びる支丘の平担部に立地しています。

宮下遺跡遠景

遺跡の土層は４つに分かれ、第Ⅱ層下部～第Ⅲ層が遺物包含層です。

遺物としては、縄文土器片や石鏃・石錘・打製石斧・フレーク等石器類が主に出土しています。

現在のところ、遺構はまだ確認できていません。県内の美並村以北においては、いわゆる“黒ボク土”の堆積が非常に厚く、多くの遺物を包含する遺跡は多いのですが、同層内での遺構の検出例が乏しいのが現状です。出土遺物の位置を正確に記録することにより当時の生活面、生活単位等について調査したいと考えています。

また、県下では毎年約30～40例程の発掘調査が行われていますが、県の中央部の美並・八幡地内では発掘調査例が乏しいのが現状です。今後の調査の成果に期待しています。

■高山陣屋跡
埋蔵文化財発掘調査

高山市八軒町１丁目に所在する史跡高山陣屋跡は、江戸幕府直轄地（天領）の役所跡です。

今回の調査は、史跡高山陣屋跡第３次復旧整備事業を実施するにあたり、郡代役宅の復元方法を検討する資料を得るためのものです。

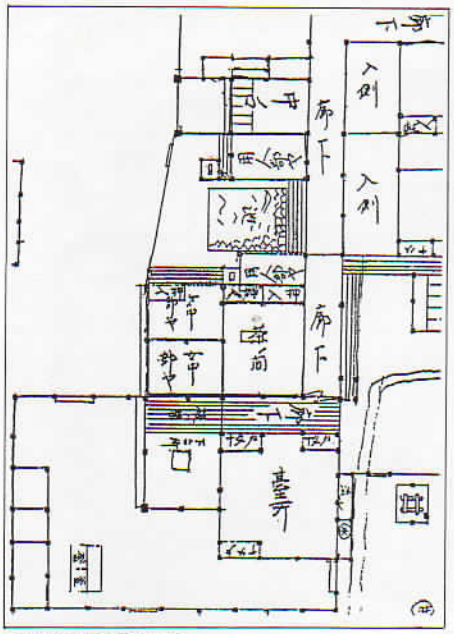
飛騨国は元禄５（1692）年、幕府の直轄地と改まり、明治維新までの176年間にわたって代官・郡代の治政が続きました。陣屋を置くことになり元禄８年（1695）年から旧金森家下屋敷を当てることとしました。これが「高山陣屋」の始まりです。以後、明治維新を経て、昭和44（1969）年県事務所庁舎新築移転まで、270余年の間、飛騨地方の行政がここで執行されました。

郡代役宅は、享保10（1725）年建て替えが行われ、この時初めて代官役所としてもっとも重要な「御役所」と「御役宅廻り」とを区分し形態を整えたと思われます。陣屋建物の改修は文化13（1816）年に着手されましたが、郡代役宅の座敷・勝手廻りの建て替えは延期され、文政13（1830）年になって改修されています。

その後郡代役宅は、大正元（1912）年に撤去されて郡会議室が建てられ、同13（1924）年に岐阜監獄高山支所（後に岐阜刑務所高山拘置支所）が新設されました。平成元（1989）年高山拘置支所の移転に伴い、史跡の追加指定を受け、第３次復旧整備事業を行うこととなりました。

高山拘置支所は、郡代役宅をとり壊して建てられていたこともあり、郡代役宅の遺構がどのように保存されているのか不明です。従って、今回の発掘調査は、遺構の保存状況を確認することが大きなねらいです。

高山陣屋跡発掘風景



郡代役宅間取り図

調査を進めて行く中で、岐阜監獄高山支所新築時の整地工事の様子や、その建物の土台基礎部の工事の様子が明らかになって来ています。

現地での発掘調査は７月中旬までに終えて、その後整理作業を進める予定です。

門坂シズマ遺跡発掘調査

益田郡小坂町門坂字シズマに所在する門坂シズマ遺跡は、小坂町北西部の益田川左岸の段丘に位置しています。段丘面をＪＲ高山本線が断ち切っていて、その西に広がる水田地帯が本遺跡です。

今回の発掘調査は、建設省による一般国道41号線門坂局部改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査です。

小坂町内では、小坂川流域に詳細がわかる有力な縄文遺跡がいくつかあります。それに対して、本遺跡は、石鏃・石斧・石錘が出土しており、縄文時代の遺跡と考えられますが、土器類の出土はほとんどなく、遺跡の性格や時期などの推定は困難です。付近の遺跡（川原なぎ遺跡・岩崎神社遺跡・杉山遺跡）もほぼ同様の状態です。

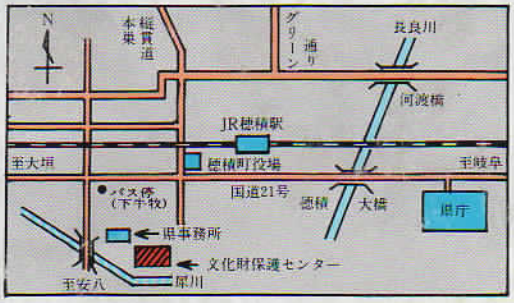
現地での調査は８月から11月までの予定です。遺構の検出および出土遺物の検討によって、遺跡の性格を明らかにしたいと思います。調査面積は1,000㎡です。南西部はかっては谷になって落ち込んでいたようで、黒色土の堆積が厚いようです。従って、調査の中心は遺跡の北東部が主となります。

現地での発掘調査終了後、報告書作成作業を開始します。

センターだより

●日誌

3．4．1　財団法人岐阜県文化財保護センター開所式開催
　　9　日置弥三郎理事死去
　　11　水資源開発公団徳山ダム建設所長他と打合せ
　　17　日本道路公団美濃工事事務所長他と打合せ
　　19　高山陣屋跡発掘調査始め式開催
　　22　城之内遺跡発掘調査始め式開催
5．7　徳山埋蔵文化財（塚・上原遺跡等）発掘調査始め式開催
5．10　東海北陸自動車道埋蔵文化財（深戸・宮下遺跡等）発掘調査始め式開催
　　30　第12回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会出席
6．4　中部電力山崎用地部長他来訪
　　17　第１回理事会開催
　　新しく中井勉理事（岐阜県町村長会長）・大野政雄理事（岐阜県文化財保護審議会長）就任
　　19　岐阜西部経済懇話会出席（局長・調査課長）
　　29　瑞浪市太田教育長来訪

■編集後記

センターの開所式は、多数のご来賓を迎え、センターの今後を励ますような強い風の中で行われました。それからもう３ヶ月……センターの施設整備も、調査始め式で始った発掘作業も着々と進んでおります。広報「きずな」はそんな慌しい中で何とか発刊にこぎつけました。題字の「きずな」は梶原知事にお願いしました。この「きずな」はセンターの事業活動をご理解、ご支援いただくために年３回発行します。センターと皆さんをつなぐ絆、過去と未来をつなぐ絆、東西文化をつなぐ絆、そして地域の人と人とをつなぐ絆になれば幸いです。ご意見、ご感想をお待ちしております。